（郵便省認可）　　（定價二錢）

時事新報

第千七百五十八號
明治廿年十一月三十日　水曜日
舊十亥十月十六日（己、亥）
（西暦一千八百八十七年）

毎年三百六十五日毎日刊行の新聞紙い日本國中ゝ唯時事新報あるのみ

時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價左ノ如シ
一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵送ニテ差遣スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上 六日迄	七日以上 十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢 二厘	六錢 八厘
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢 三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢 五厘	五錢八厘五毛	五錢 五厘

時事新報

中學の獨立（前號の續）

我輩は前號の紙上に於て中學校に入學をも醫學校に入學をも其目的い等しく自身營生の料に供するものなれば政府は宜しく之を放任して地方税と分離せしめざる可らざるの次第を論述し其大意は既に明ならんと信ずれども論者或は之を悅ばず若しも中學校として地方税の保護を離れしめなば私立學校の組織とある可し私學校に入學するの費用い公立學校と同じからざるが故に各地方にて學に就らんとする者も學費の重きに堪へずして多くい小學校の教育に止まり猶其以上をば斷念するに至る可しと云ふものも亦らんかあるも共抑も我國の人民い男女共に夙に教育の必要を知る者にして殊に文明の風潮、社會に流行してより以來人々益々其重きを知り老若頑愚と雖も子孫の質問に當惑して却て之を喜び學問の德仰いて高しと云ふに至るたるのみか本來子を愛するは親の至情にして其子が世間に稱揚せらるれば忽ち榮譽の顏色して吾を忘るゝ程のとなれば教育費の增加を遺念せざるには非ざれども子を教へんとするの熱度と金を惜むの慾度とは普通の人情に於て如何あるべきやと云ふに子に優る實はなくして金を惜むに過ぎらざるものゝ如し既に教育の重んずべきと知る父子を愛するの心ありとすれば好し從來は公立學に居て一年四五十圓の學費を以て充分なりしものが私學に入るが爲めに倍して百餘圓に上ることゆるも之が爲め忽ち廢學せしむるあとの掛念は萬々無用の沙汰なり或は吝嗇なる指大ゞ既に費なるの家產にてありながら教育費の增加を口實に愛子の廢學を無頓着に附するゞ如き者あらば是は固より例外ゝして其子の不運是非もなきことゝ諦め可況のみ左れば教育は人事の私の部分に屬し子に對する父母の義務責任にして又ろの自然の情に訴へても自然の方向に趨む可きものなれば傍より深く心配するに足らずと雖も學問教育は甚だ大切なることにて社會の運命と進退するものなれば其性質の如何に拘はらず唯人々の隨意に一任して父母の愛情にのみ依賴し獨り公共の費金を投じても大に之を奬勵せざる可らずとの議論もあらんか然れども人間世界に大切なるものい其數多くして特り學問教育のみに限らされば是も大切あり彼も大切ありとて一々これを計へ立ると況は大切なるものは殆んど限りある可らず公共限りあるの費金を以て限りなく況の大切あるものに供せんとせ、固より數の許さざる所なれば單に學問教育と大切なりとして以て地方税の支辨と仰がんとするの說は天下經濟の上に通用す可らざるものなり或は唯大切との云ふまゝならずして今の日本ゝ教育と奬勵せざれば文風に吹かれて其熱心は之と留めんとして留む可らず假に政府が教育急にす可らずあゞと消極の令を布くも天下の青年子弟は積極の運動を怠らずして一方に進歩す可況や事實に照らして我輩の保證する所なり或は又論點を轉じて貧生談に及び子弟を教るに家に資產ある者は可なりと雖も俊英の青年にして唯錢なきが爲めに其天資を空ふするは人情に於て忍ぶ可らず公共の保護尙は要用なりと主張する者もあらんか我輩も亦これを思はざるに非ず今の世界にも貧困に迫りて子弟の教育に堪へざる者國より多く吾人が共に常に氣の毒に思ふも所なれども此社會の組織と根底より變更して貧富を平等にせんとするが如きは今の人力の及ぶ所にあらず綾羅錦繡身を纏ひ花晨月夕遊興を恣にする者もあり綿衣敝袍終年役々として暇なき者もあり甚だしきは藍褸猶は肌を蔽ふに足らずして一椀の粥空しく塞憲に苦呻す食の有樣より學問教育の事に至るまでも毎人に一樣ならざるは即ち今の社會の組織にして之を如何ともす可し二十八人の割合なりしが種痘法の實施後いに於ける死亡者の割合も皆一般に減少せざるも亦た人類死亡數の割合が前世紀には二十三歲なりとす又瑞典、諾國七百四十年以降死亡統計表と調製せり該表に據れば世紀に於ける同國民れ死亡數は平均人口千人なりとす伊國に於ける死亡統計表を有せすと雖も該國ゞセリィ氏の調査に係る千七百七十年代の死亡數は平均人口千人なりしが現時ゞ二十八人なりとす表に據るに當時同國死亡者の數は平均人口千人なりしが現時ゞ二十四人なりとす死亡數は三十四人ありしが現時い廿二人まで減少せり又同國の西南地方に於ては千七百七十五年乃至千七百八十三年の頃人口千人に對する死亡數は三十四人ありしが現時い廿二人まで減少せし實證は況く之を各國に徵知せるゞ如きに佛國ラプーラス及コンコルドに於ては千百九十年の頃每年死亡者の數い平均人口千人に對する十二人の割合ありしゞ目今は二十四人まで減少せり而して其重ある原因い單に輒近醫學上及び衛生學上の進歩のみに歸すべからず寧ろ百般事項の改良因するもの多きに居れり特に其最も著しきは法及乾沼工事等是なり現に瑞典國に於ては毎年痘瘡のために死亡せし者の數は人口十萬人の割合なりしが種痘法の實施後いに付き十人の割合に減少せり和蘭國に於て出產兒百人中一歲未滿にして死亡せし平均なりき然るに近年リムブルグ州に於て恐怖せし以後同地方に於ける出產兒百人中一歲にして夭死する者は僅々十二人より多からず（本年十一月二日露國官報）（以上本年十一月二日露國官報）

官報

遞信省內信局長　林　董
遞信省參事官　栗野慎一郎

○辭令

（各通）

遞信書記官　飯
遞信省會計監督官　唐
遞信四等技師　吉
遞信書記官　若

電信條例及電信規則編成委員ヲ命ス

（十一月廿六日）

○奈良縣列順　今般設置せられたる奈良縣の次に列せられたり

○信號柱移設　廣嶋縣下廣嶋區宇品港は築の出入日に繫ぎを以て今般其便を謀り從來村堤塘に建設せる暴風信號柱を同廣嶋宇品嶋水上警察署構內へ移し來る二十五日以後る每に信號標を揭示せるとせり（廣嶋縣）

○元山港居留日本人の戶口　去月の調査に留日本人の總人口は三百八十六人、內男二女百三十三人にして戶數い八十三戶なり（

○人類死亡數の減少及其重因　過般伊國醫萬國統計協會の會議を開設せる際佛國醫ル氏は人類死亡數の割合が前世紀の末年減少せし實證及其重因に關する調査說を談要旨に曰く今世紀に於て人類死亡數の減少せし實證は況く之を各國に徵知せるに佛國ラプーラス及コンコルドに於ては千百九十年の頃每年死亡者の數い平均人口千人に對する十二人の割合ありしゞ目今は二十四人まで即ち現時に於る死亡者の平均年齡と三十前世紀には二十三歲なりとす又瑞典、諾國世紀に於ける同國民れ死亡數は平均人口千十八人なりとす伊國に於ける死亡統計表を有せすと雖も該國ゞセリィ氏の調査に係る千七百七十年代の死表に據るに當時同國死亡者の數は平均人口四十二人なりしが現時ゞ二十八人なりとす

○神戶早附木製造　我邦製造早附木の支那販路を開ひたるは去明治十一年の頃ゆて爾に赴くに從ひ各製造家の競爭を惹起して遂の弊を生じ彼地の信用忽ち地に墮て販路の爲め內地の製造場は陸續廢を接して倒れ供給さへ不足を感せしひるに至りたり然る年以來は早附木の製造漸次再興して上海た益々擴張し來り現に神戶港に於ても昨所盛んに起ると雖中三箇所の工場は男女職工至千人を使役し其他工場都合十三箇所もゆて工三四百名を使用し日々の製造高は凡ろ二日小箱十箇入一包を七百二十箇入れし大箱多きにも及べる由又同港の下等社會の婦女木の小箱を製する者い數千人もゆる趣きあ手刷れたる者は一日に八九箇より十箇の手次第あれば近來各地より之と聞傳へて職人戶へ入込み來る者頗る多數なりと云へり

雜報